

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2001-519367(P2001-519367A)

【公表日】平成 13 年 10 月 23 日 (2001.10.23)

【出願番号】特願 2000-515446(P2000-515446)

【国際特許分類】

A 0 1 N 65/00 (2006.01)

A 0 1 N 25/30 (2006.01)

A 0 1 N 63/00 (2006.01)

【F I】

A 0 1 N 65/00 A

A 0 1 N 25/30

A 0 1 N 63/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 9 月 13 日 (2005.9.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

約 35 ～ 90 容量 % の量でシネオールを含有する約 20 ～ 30 容量 % のユーカリ油、約 5 ～ 15 容量 % のカユプチ油、約 5 ～ 15 容量 % のレモングラス油および約 2 ～ 10 容量 % の界面活性剤および約 40 ～ 60 容量 % の水からなる殺虫性組成物。

【請求項 2】

組成物が、約 25 容量 % のユーカリ油、約 10 容量 % のカユプチ油、約 10 容量 % のレモングラス油および約 5 容量 % の界面活性剤および約 50 容量 % の水からなる請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

組成物が、さらに 50 部の水あたり 1 部の組成物となるように希釈される請求項 1 ～ 2 のいずれかに記載の組成物。

【請求項 4】

界面活性剤が、アニオン界面活性剤である請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の組成物。

【請求項 5】

アニオン界面活性剤が、アルキルアリールスルホネート、アルカンスルホネート、アルコールおよびアルコールエーテルスルフェート、ポリエーテルカルボキシレート、オレフィンスルホネート、 α -スルホモノカルボン酸エステルおよびリン含有アニオン界面活性剤からなる群から選択される請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 6】

界面活性剤が 2-エチルヘキシルスルホコハク酸ナトリウムを含有する請求項 5 に記載の組成物。

【請求項 7】

油を基にした溶液、水を基にした溶液、粉体またはゲルの形態で提供される請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

適当な昆虫誘引物質をさらに包含する請求項 1 ～ 7 のいずれかに記載の組成物。

【請求項 9】

誘引物質がフェロモンである請求項 8 に記載の組成物。

【請求項 10】

クチクラまたはタンパク質性の外骨格を持つ昆虫またはその幼虫に対して使用するための請求項 1 ～ 9 のいずれかに記載の組成物。

【請求項 11】

家禽小屋の昆虫またはその幼虫に対して使用するための請求項 1 ～ 10 のいずれかに記載の組成物。

【請求項 12】

請求項 1 ～ 9 のいずれかに記載の組成物の有効量を一区域に適用することを包含する殺虫活性を制御する方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

本発明の別の態様において、一区域で殺虫性活性を制御するための方法を提供する。この方法は、本発明の組成物の有効量をそこで適用することを包含する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

実施例では、本発明の組成物を、ゴムシダマシ、バッタ (*locusta migratoria*)、西インドのゴキブリおよび家禽小屋の厩肥昆虫 (*Alphitobius Diaperinus*) に適用した。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

【表 1】

バリエー B = ユーカリ油 25%、カユプチ油 10%、レモングラス油 10%、界面活性剤 5%、水 50%

バリエー B の組成

生物体	消滅数	経過時間
ゴムシダマシ	全数	3 分
ゴキブリ	全数	4 分
バッタ	全数	5 分
家禽小屋昆虫	全数	1.5 分
家禽小屋昆虫の幼虫	全数	1.5 分